

## 車いすのお父さん

5年 吉村 鈴音

私のお父さんは、歩けません。私が小学3年生の夏休み、私の家族は交通事故にあいました。車に乗っておばあちゃんの家に行く途中、後ろの車に追突されてしまったのです。とても大きなしょうげきで、何が起こったのか、私にはすぐに理解できませんでした。お父さんの足は、事故直後にしびれ出し、日が経つにつれて下半身は動かなくなっていました。そして、事故から約1か月後にお父さんの車イス生活が始まりました。

お父さんは、車イスで生活するようになり、不自由に感じる事が多くなったと話してくれます。

まず一つ目は、歩道です。私にとっては平らに見える歩道ですが、車イスのお父さんにとっては、とてもガタガタな道なのだそうです。車イスのタイヤが動きにくく、うでにたくさんの負たんがかかるのです。だから、お父さんは、毎日うでの筋肉をきたえるトレーニングをしています。

二つ目は、階段です。車イスでは階段ののぼりおりができません。そのため、行動はんいはかなり制限されてしまうそうです。自分の行きたい場所に行けないのはとてもかわいそうだなと思います。

三つ目はちゅう車場です。歩ける人がちゅう車するスペースはたくさんありますが、車イスの人がちゅう車するスペースは、ほんのわずかしかなかったり、車イスを出し入れするためには、どうしても大きなスペースが必要です。だから、専用のちゅう車スペースが空いていないと、ちゅう車することができないのです。今までにも、歩ける人が車イス専用スペースにとめていたため、何時間も待ったり、そのお店での買い物をあきらめたりしたことがあったそうです。

私は、お父さんの話を聞いて、車イスの人は苦勞が多くて、つらいだろうと思いました。しかし、私のお父さんは、いつも笑顔で生活しています。不自由なことは多いけれど、悲しそうには見えません。私たち家族のために、おいしいご飯を作ってくれたり、私の授業参観に来てくれたりもします。私は、車イスでがんばっているお父さんを、とてもそん



けいしているし、大好きです。

私は、この町をお父さんのように車イスで生活している人にも住みやすい町にしたいと思っています。今の私にできることは、お父さんが困っているときにお手伝いをすることです。また、自転車はじゃまにならないようにちゅう輪場止めることや歩道にごみを捨てないというような、当たり前のマナーやルールを守ることだと思います。今、自分にできることを見つけ、行動していきたいです。

(桜小)

大好きなお父さんについて作文を書きました。お父さんに聞いたことや、いつも一緒にいて感じることを分かりやすくまとめることができました。

車イスで生活しているお父さんには、日常生活の中に困難が多くあることを改めて知ることができたようです。不自由なことが多いにも関わらず、笑顔で元気なお父さん。鈴音さんは、そんなお父さんを心から尊敬しています。お父さんにとって住みよい町を実現していくために、自分にもできることを実行していこうという気持ちを大切にしたいと思います。